

## 編集後記

今回、初めて本誌の編集委員に加えていただいた。頻繁に送られてくる採用論文に目を通すのは大変であるが、気がついたことはできるだけ意見を述べ、良質の雑誌を作っていくよう微力ながら頑張っていきたい。

特に昨年度より英文誌が発刊されたこと、また世界的に電子版 journal が普及したことなど、今後どのような方向性をもって編集に取り組むか難しい時期であると思う。紙面に比べて低予算での発行が可能な電子版 journal は、次々と新しいものが刊行されている。そのため逆に、多くの読者をとりこむのは、紙面の時代と比べて難しくなっているように思う。私のメールにも毎日大量の新刊 journal からの投稿依頼が寄せられてくるが、ほとんどが即ごみ箱行きである。

今回新しく英文誌を刊行し、良質の論文を投稿してもらおうとなると、より一層の工夫が必要となるであろう。よく使われる Impact factor (IF) の獲得も一つの方法であろう。しかし、小児循環器という特殊分野で IF を獲得し、雑誌の価値を示すというのは現状極めて困難である。IF が field-dependent であり、その分野に従事する医師の数に比例することは周知の事実である。

日本循環器学会の会員数が 26,000、日本胸部外科学会 8,000 に対して日本小児循環器学会は 2,400 程度である。日本循環器学会の Circulation Journal の IF は 4 前後。これは胸部外科の最高峰である米国 JTCVS に匹敵する数字である。日本胸部外科学会雑誌が英文化したのが 2000 年、それが現在においても IF 取得に至っていない現状を考えると、小児循環器分野ではいかに困難かは容易に想像できる。

このような現状を踏まえて、本分野の先生方が広く共有できる情報を提供していけるよう、知恵をしばっていかねばいけないと思う。

(安藤 誠)